地域組織の確立で
会員間の絆の促進を

JAM シニアクラブ ニュース

第189号
発行日　2023年9月25日
発行者　JAMシニアクラブ
mail jam-senior@jam-union.jp
発行所　東京都港区芝2-20-12　友愛会館11階　JAM本部内　〒105-0014　電話03-3451-2650　fax03-5440-7389

2024年度JAMシニアクラブ定期総会を開催

郡山りょうの必勝に向けての取組みを確認、24年度活動方針、予算、2024・25年度役員選出、規約の一部改訂等の承認がなされた。

2024年度JAMシニアクラブ定期総会を9月6日、東京・友愛会館大ホールで開催しました。

総会には、全国31の地方シニアクラブから代議員33人、役員21人、JAM現役3人、ご来賓4名の総勢61人が出席しました。本来は代議員数を拡大して開催する年度の総会でしたが、コロナ感染を勘案して昨年同様、人数を縮小し各地方代議員1名の開催となりました。

午後1時30分開会。冒頭、昨年度中にご逝去された、中下恵司前中央幹事・前兵庫シニア会長、屋敷英雄前中央幹事・前愛知シニア会長、斎藤義美福島シニア事務局長に対して参加者全員で黙とうを捧げました。那珂副会長の開会の挨拶のあと、議長団に選出された京都の伊藤純夫さん、神奈川の大山郁雄さんが登壇。最初にJAMシニアクラブ大山会長より次の4点にわたっての挨拶がありました。

①少子高齢化と社会保障、地球温暖化防止、子供・子育てなど「次世代の希望につながる活動」を推進していく。②健康保険証廃止など政府の国民大多数の意見を無視した強引なやり方に歯止めをかける取組みが重要。③マクロスライドにより実質低下した年金、第3号被保険者の問題、自己負担増が検討されている介護保険、社会保障費予算の削減や増税につながる防衛費の増額など、いろいろな課題について中央、地方で我々の政策がどうあるべきか議論をしていく。④減少しつづける会員数に歯止めをかけ早期に8000人台に回復するため組織拡大に全力をあげる。

次に4名のご来賓よりご祝辞をいただきました。JAM現役を代表して安河内賢弘会長からは「23春闘は高い水準の賃上げを獲得した。大手が満額回答の流れをつくり、中小もJAMが5000円の相場を形成した。横並び春闘の機能が十分に発揮された。今年だけでなく来年以降も継続した賃上げを行う。そのためには、価格転嫁の取り組みが必要。まだ道半ばであるが、ようやく芽が出て来た。この芽を大きく育てていきたい。

郡山りょうを2025年参院選比例区に擁立した。ものづくりの現場で働き、組合役員として汗と涙を流してきた我々と同じ経験をしてきた仲間を当選させていく。状況は厳しいが、津田弥太郎さん以来の失われた議席を全力で奪還していくので、シニアの皆さんのご協力を切にお願いしたい」

〈裏面〈続く〉

主張

9月6日のJAMシニアクラブ定期総会は、「24年秋からの健康保険証廃止撤回」を求める日本退職者連合の団体署名活動を展開する中で開催されました。マイナ保険証はトラブルが続いているだけではなく、600万人を超える認知症患者や介護保険施設での取り扱いなどを考えれば、現行の健康保険証を廃止しマイナ保険証に一元化する必要があるのでしょうか。健康保険証の廃止撤回を求める活動は、高齢者が生活しやすい社会システムの継続を求める取組みです。

また、日本の出生数が年間80万人を切り人口減少時代に入り、子育て・少子化対策には毎年2兆5千億円の国家予算が必要になると言われています。定期総会で決定した24年度活動方針は、子育てを社会全体で支えなければならないことを重視し、税・社会保障の見直しの議論を進めることを決定しました。高齢者の生活は、物価高と年金のマクロ経済スライドによる実質減、医療、介護の負担増などで厳しくなっています。24年度は、介護報酬と診療報酬の改定、年金の財政検証（25年度改定）が行われます。介護、医療では、従事者の労働条件を引き上げなければ従事者不足に陥ることや利用料、自己負担増による利用控えで保険あっても介護、医療なしの事態が予想されます。現在、特に介護利用料の2割負担対象者を拡大する審議が政府の審議会で行われています。この利用料、自己負担増に歯止めをかけ、税・社会保障の見直しの議論を進め、「次世代の希望につながる活動」を推進していきます。　干ばつ、大雨・洪水など地球のいたるところで自然災害が多発しており、「次世代の希望につながる活動」では、地球温暖化防止に引き続き取組みます。

また、24年度政府予算案では、防衛費に7兆7千億円が計上されました。27年度には10～11兆円になり、その後も続く防衛計画が岸田政権の外交・安全保障政策です。増税と社会保障予算の削減が迫ってきます。専守防衛を逸脱し、敵基地攻撃能力を持つ防衛費増と増税に反対し、核兵器禁止条約の批准を政府に求めていきます。

これらの取組みの前進には、政治の状況が大きく係わっており、私たちの声を政治に反映する代表を国会に送り出しているかです。絆、繋がりを大切にした対面の活動を活発化させ、新しい会員を迎え入れることに力をそそぎ、25年参議院選挙のJAM組織内予定候補者「郡山りょう」の必勝に向けた取組みを現役と連携し強化しましょう。

「郡山りょう」必勝に向け取組み強化を

JAMシニアクラブ会長　大山勝也

〈表面から続く〉

日本退職者連合を代表して野田那智子事務局長からは「ＪＡＭシニアから要請を受け健康保険証廃止の団体署名の取組みを行っている。医療、年金、介護と我々の負担が増えていくがとくに介護は長期にわたる問題で経費がかかるからといって家族介護、女性介護に戻してはならない。生活、介護、健康について不安を持つ人が85％、こういう社会をつくってはならない。平和、人権、民主主義の保障など次の世代にしっかりと伝えていく」

基幹労連シニアクラブの兼子昌一郎会長からは「10月12日の基幹労連シニアの総会で郡山りょうさんの推薦を決定する。村田享子を応援いただいた恩返しとして全力で取組む。ものづくり産業の発展と組合員の安心、安定のためには政治分野での取り組みが不可欠、何としても郡山の当選を勝ち取る」

村田享子参議院議員からは、昨年の参議院選での支援御礼と国会での質疑の中で電気料金の特別高圧契約が補助金の対象になった事例を紹介し、「ものづくりの現場の声を政策として実現し、皆さんの産業や暮らしに役立つことが出来た。これが組織内議員をもつメリット。厚生労働の郡山りょうさん、経済産業の村田の二本柱で頑張りたい」それぞれ力強い心温まるご祝辞をいただきました。

２０２５年参院選を闘う郡山りょう候補予定者も駆けつけ、「津田弥太郎さん以来止まっているワークルールの改正、安全衛生や最低賃金の課題などに取組みたい。働く人たちが健康で安心して働ける社会、老後も安心して暮らせる社会を実現するために厚生労働委員会で皆さんの現状を伝えて頑張りたい。ＪＡＭを支えてきた大先輩の皆さんの協力をお願いする」との決意表明を受けました。参加者一同で万雷の激励の拍手を送りました。

活動報告、会計報告のあと議案審議に入りました。

第１号議案「２０２４年度活動方針案」の審議では、４名の代議員から①沖縄の辺野古基地問題についての取組みは。②そごう西武のストライキについて連合の動きや姿が見えない。③健康保険証廃止反対の取組みについて、今後団体署名以外の行動が検討されているのか。④参院選について、シニアとして現役にどのような助言・提起をするのか。⑤選挙について組合の力が低下している。組合員宅訪問などの対面の活動を重視すべき等々の質問意見が出されました。

本部より基地問題、保険証廃止反対の活動について退職者連合の考え方、取組みを報告し、選挙については、今後の具体的方針の中で検討していくとの答弁があり、採決の結果、２０２４年度活動方針案は満場一致で承認されました。

その後第２号議案「２０２４年度予算案」、第３号議案「２０２４・２５年度役員選出」、第４号議案「規約の一部改定」、第５号議案「表彰」の順に審議をすすめ、いずれも全員賛成で承認されました。

表彰の議案が承認されたあと、今期をもって退任される早川行雄副会長（本部）と山村信二幹事（石川）に感謝する表彰を行いました。大山会長より表彰状と記念品が授与されたあと、お二人より謝辞がありました。

午後４時、すべての議事を終了して、最後に大山会長の発声で郡山りょう必勝に向けてのガンバロー三唱で閉会しました。

京都

定期総会を開催

伊藤忠男　通信員

京都シニアクラブは９月８日、京都労働者総合会館で２０２４年度の定期総会を開催しました。

役員14名・代議員25名が出席、来賓としてＪＡＭ本部大山会長、現役のＪＡＭ京滋伊達書記長にご挨拶をいただき、また来年に予定される参議院選挙の組織内予定候補・郡山りょうさんはじめ４名の方からのメッセージを紹介。大会議長・長岡四四さん（三谷伸銅退職者組合）の議事進行で、過年度経過報告・決算報告、２０２４度の活動方針・予算の審議、任期満了に伴う役員選出を行いました。

提案された活動方針は以下の七項目。

一．新型コロナウイルスの感染状況に留意しながら活動に取組む。

二．政策制度に関して、①生活必需品の値上げに対する弱者へのきめ細かい支援を要求。②防衛費増などに対する財源と国民負担の説明を。③健康保険証の廃止に懸念。④将来にわたって安心できる年金・医療・介護・認知症対策の確立。⑤二〇二五年参議院選挙組織内予定候補「郡山りょう」さんの支援活動。⑥政策研修会の開催。

三．会員拡大については現役の協力も得ながら取組む。

四．会員交流のため囲碁・将棋大会、グラウンドゴルフ大会を実施。

五．幹事会の定期開催と機関誌の発行。ＪＡＭシニアホームページの活用。

六．ＪＡＭシニア・京都退職者連合との連携。

七．労働金庫・こくみん共済の活用。

この活動方針と活動の裏付けとなる２０２４年度予算を満場一致で確認、改選された新任役員を代表した木村正次会長の音頭で「がんばろう」を三唱し、新年度がスタートしました。

健康保険証廃止の撤回を求める署名活動

７月20日の第３回幹事会で実施を決定した、「来年秋に予定される健康保険証廃止の撤回を求める」団体署名の活動にすべての地方シニアクラブ、多くの単組ＯＢ組織からご協力をいただきました。９月14日、大野事務局長が退職者連合の事務局を訪ね、野田退職者連合事務局長に集約された46団体の署名簿を提出しました。

現在退職者連合全体では約２０００団体の署名簿が集約されていますが、10月初旬に、厚生労働省とデジタル庁にそれぞれ手渡される予定です。

臨時国会は10月16日開会予定ですが、大多数の国民が撤回と延期を望んでいる健康保険証の廃止がどうなっていくのか、我々の行動が国会の動向にどう反映していくのか、厳しく見守っていきたいと思います。

ご協力いただいた各地方シニアクラブ、単組ＯＢ組織に心より感謝を申し上げます。